

天草家保通信

熊本県天草家畜保健衛生所

TEL 0969-22-3668 FAX 0969-24-4393

HP) <http://www.pref.kumamoto.jp/construction/section/kaho/index.htm>

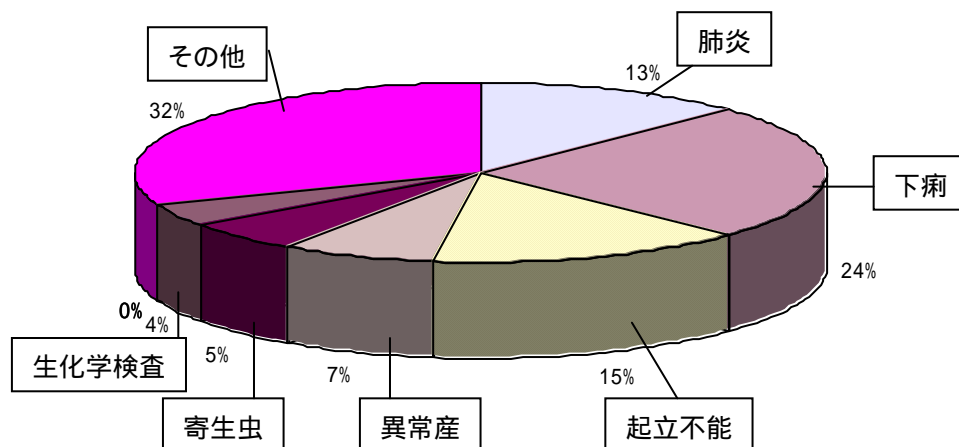
E-mail) amakusakaho@pref.kumamoto.lg.jp

今月は平成18年度の病性鑑定成績について述べます。

病性鑑定成績

平成18年度はアカバネ病の発生により、起立不能や異常産が多く見られましたが、病性鑑定依頼の多くは、牛の呼吸器病と下痢であり、慢性的に蔓延している疾病でした。これらの慢性的な疾病は、管理失宜によるものが殆どであり、ストレスがかからないような環境作り、定期的な消毒、野性動物、鳥類、および部外者の侵入防止対策など基本的なことから見直す必要があります。病気が発生してから対策を取るのではなく、日頃から発生しないような飼養管理を行っていきましょう。

牛の病性鑑定依頼状況



18年度の病性鑑定において最も多かったのは子牛の下痢症です。下痢をおこすと栄養分の吸収も下がり、免疫も落ちてしまいます。免疫が落ちてしまうと他の疾病の発生の原因にもつながります。そこで次に子牛の下痢症について触れておきます。

～子牛に多発する下痢症～

大腸菌性下痢

4日齢以内に発生。酸臭がある黄色水様性下痢。
対策：分娩・ほ乳牛房の消毒隔離、輸液、有効薬剤投与。

コクシジウム病

主に1～6ヶ月齢に発生。稀に育成、成牛でも発生する。
血便、赤黒色泥状便を呈する。
対策：生石灰、熱湯などによる消毒。
獣医師によるサルファ剤投与。

牛ロタウイルス病

4日齢～数週齢で起こる。激しい黄色水様性下痢。
対策：早期隔離、補液、抗生物質、抗ウイルス薬の投与、
洗浄・消毒・乾燥の徹底。

牛サルモネラ症

2週間以降で起こる。発熱を伴う悪臭のある黄白色下痢。
対策：早期の摘発、異常牛の隔離。消毒、抗菌剤の投与。

線虫症

放牧の子牛の発生率が高い。寄生性胃腸炎からの下痢。
対策：定期的・な駆虫。

乳頭糞線虫症

濃厚感染牛では突然死する。下痢。
対策：定期的・計画的な駆虫。オガクズ牛床の中止。

クリプト
スポリジウム病

3週齢未満で起こる。黄色泥状便。人にも感染。
対策：畜舎、長靴等の洗浄、熱湯消毒、子牛同士の隔離。

～子牛の下痢症についてワンポイントアドバイス～

環境：床面が冷たくならないよう新鮮な敷料を入れておく。
飼養管理：親のエサ不足、急激な増し飼いも子牛の下痢の原因になります。
親牛の健康管理にも注意すること。

こんな時はどうすればいいの…？

軟便

要注意・生菌剤などを与え様子を見る

白痢
血便

早めの隔離、離乳を行い、脱水防止のため、コンソメスープ
やスポーツ飲料、みそ汁等を薄めたものを与える。
獣医師に連絡し、診察をうけること。